

Juichi WAKISAKA Race Report

2015 AUTOBACS SUPER GT Round 1 – OKAYAMA GT 300km RACE -

◆◆ 果敢な攻めを貫き、10位入賞 ◆◆

No. 19 WedsSport ADVAN RC F		
Drivers	Qualifying	Final
脇阪 寿一 / 関口 雄飛	14位	10位



■大会概要

開催日：2015年4月4日-2015年4月5日

サーキット：岡山国際サーキット（岡山県美作市、コース全長：3.703km）

レース距離：82周（303.646km）

入場者数：予選日9,300名、決勝日17,000名、合計26,300名

4月4-5日、岡山国際サーキットにおいて2015年SUPER GT第1戦が行われ、LEXUS TEAM WedsSport BANDOCHでのシーズン2年目、そしてGT参戦17年目を迎えた脇阪寿一、そしてパートナーの関口雄飛選手は予選14番手からスタートを切り、10位でフィニッシュ。厳しい状況の中でも尽力し、入賞&ポイント獲得を果たしている。

昨シーズンの幕開けとは大きく異なり、今シーズンはオフの間にテストを重ねてきたNo.19 WedsSport ADVAN RC F。脇阪は関口選手、そしてチームスタッフやタイヤメーカーとともに車両、タイヤ開発に時間をかけて準備を進めてきた。その中で着実に進化を感じつつ、手応えをもって開幕戦に挑むこととなる。

■4月4日(土)

09:00-10:45 公式練習（11:00-11:20 サーキットサファリ）

15:10-15:25 ノックアウト予選（Q1）

15:55-16:07 ノックアウト予選（Q2）

【公式練習】 13番手 / 1'21.642

迎えた初戦の岡山。サーキットは灰色の雲が一面に広がっている。また、路面は前夜の雨が残り、ウェットコンディション。よって、午前9時からの公式練習ではレインタイヤを装着して走行開始となった。まず関口雄飛選手がNo.19 WedsSport ADVAN RC Fに乗り込み、次いで脇阪がステアリングを握る。刻一刻と変化する路面でのセットアップは容易ではなかったが、脇阪は状況をしっかりと捉えてチームへとフィードバック。ポジションとしては10番手前後を行ったり来たり、というものではあったが、専有走行に入っても、決勝を見据えたロングランにも時間を割いたことがその理由のひとつでもあった。結果、チームは13番手でセッションを終えている。



【ノックアウト予選 (Q1)】 14 番手 / 1'20.461

午前の公式練習中に、ほぼドライコンディションに回復した路面。午後の予選に向けて完全にドライコンディションとなる。

Q1 担当は関口選手。今シーズンもノックアウト方式でのタイムアタックが繰り返される。GT500 では全 15 台中上位 8 台が Q2 に出走できるため、まずはトップ 8 入りを目指すことになる。セッションの時間は 15 分だが、ほぼ全車がワンラップアタックを決め込んでおり、なかなかコースに姿を現さない。関口選手も同様で残り 5 分を過ぎてからアタックを始め、1 分 20 秒 461 の自己ベストをマークするも 14 番手に留まり、Q2 進出は叶わずに予選を終えている。

予選での出走を果たせなかった脇阪。「色々なことを確認しつつ、朝の公式練習ではトップ 10 あたりにいたので、アタックのシミュレーションよりもロングランに時間を割いていました」と朝からの流れを振り返った。「事前の岡山テストで今の自分たちに足りない部分は何なのか、多方面から見直してこのレースを迎えました。テストでは手応えもあったので、それなりの自信もあったんですが」と悔しさがにじみ出る。「アタック担当の関口選手も、自信をもって攻めることができた、と言うくらいいいアタックだったようですが、順位は 14 番手どまり。これは、チーム自体が進化できているのは明らかでも、ライバルたちがさらに進化していた、ということの表れです。反省すべき点でしょうね」。数字としての予選結果は満足できないものとなったが、その一方で、「自分たちのレベルは間違いなく上昇している。岡山のテストで足りなかった部分として、タイヤ、クルマのモディファイもできていました。ただレースではライバルと競争するわけなので、この結果を真摯に受けとめないと」とした上で、「決勝はまた異なる展開が期待できるので、まず自分たちとしてやるべきことをやりたい」、と表情を引き締めた。



■ 4月5日(日)

09:00-09:30 フリー走行

14:30- 決勝 (82周)

【フリー走行】 7 番手 / 1'37.649

前日はすべてのセッションが終わった後、夜遅くになって本格的な雨となった岡山国際サーキット。決勝日の朝には再び路面がウェットコンディションへと逆戻りしていた。どんよりとした雲が一面に広がり、雨も降ったり止んだり落ち着いた天候。午前 9 時からのフリー走行も短い時間の中でコンディションが忙しく変化する状態だった。そんな中でもチームはあらゆる可能性を試すべく、時間いっぱい使って決勝へのデータ取りに取り組んだ。このセッションは 7 番手で走行を終えている。



【決勝】 10位 / 1ポイント獲得（シリーズポイント：1ポイント、シリーズランキング：10位）

ところが決勝を前に雨は上がり、天気も回復傾向という予報に。午後2時30分からの決勝レースで装着するタイヤをどうするのか…。この判断はNo.19 WedsSport ADVAN RC Fに限らず、初戦を迎える全チームにとって重要なポイントとなったのは言うまでもない。ダミーグリッドに全車整列、スリックタイヤも準備し、ギリギリまで検討した結果、チームはミディアムのレインタイヤを選択する。

気温18度、路面温度20度の中、まず関口選手をスタートドライバーにNo.19 WedsSport ADVAN RC Fの戦いが始まった。素晴らしいスタートを決めた関口選手は11番手までポジションアップし、オープニングラップを終了。順調に周回を重ねていく。気になる天気は依然変わらない。だが気温は上がらず、またこのサーキットの特性でもあるのだが、路面はなかなか乾かない。不安定極まりないコンディションの中、No.19 WedsSport ADVAN RC Fはミスなく安定したレース運びを見せていくこととなった。

レースは折り返し前後からルーティンのピットインが続くが、チームは一向にその気配を見せない。終盤にかけて雨の予報が出ているため、可能な限りピットインを遅らせたい気持ちがあり、加えて、関口選手が依然としてコンスタントなラップタイムを刻んでおり、まだピットインを必要としないからだ。結果、他車のピットインで順位が入れ替わる中、No.19 WedsSport ADVAN RC Fは暫定ながらトップを快走。その後、48周終了時点でピットインを行った。

ステアリングを引き継いだ脇阪。一方でメカニックは給油を済ませるもタイヤ交換に入る気配はなく、昨シーズン最終戦同様にタイヤ無交換で脇阪をコースへと送り出す作戦を選択。「我々が持っている選択肢の中から、攻めるというチョイスをただけ」とレース後に経緯を語った脇阪。事実、表彰台を十分に狙える位置での走行となれば、攻めの戦略を採るのは、チームとして当然のことだったといえる。脇阪は7番手でコースに復帰し、果敢な走りで周回を重ねていく。

だが脇阪がドライブを始め、20周もしないうちに無情にもポツポツと雨が落ちはじめ、再び本降り状態に。長く周回を重ねているNo.19 WedsSport ADVAN RC Fのタイヤには大変厳しいコンディションとなり、クルマをコントロールすることに集中せざるを得ない状況へと変わってしまった。結果的に10位でチェッカーを受けることとなったが、入賞&ポイント獲得を果たし、これからの戦いに向けて良い流れを作ることができたレースと言えるだろう。



「最後に雨が降り、我々の戦略をうまく活かせることができなかった。クルマをコース上に留めることで精いっぱいでした」と戦いを終えた脇阪。「ただ厳しい状況の中でその都度ベストな選択はできたと思います。この中でポイントを獲得したのは、ものすごく大きい」とSUPER GTを戦う上で必要不可欠な成果を残せたことを評価した。なお、第2戦富士を前に、チームでは菅生でのテスト参加が待っている。「オフシーズン間にずいぶん進化したし、周りに追い付いたと思いましたが、周りも同様に進化しているという現実がありました。菅生で色々とテストを重ねることで課題をクリアにし、富士に挑みます！」と力強く締めくくった。

次戦は、5月2日(土)-3日(日)に富士スピードウェイ(静岡県御殿場市)で開催される。

[Photo Gallery]



